



コマンドの設定

- [set account enable](#) (3 ページ)
- [set account name](#) (4 ページ)
- [set accountlocking](#) (6 ページ)
- [set accountlocking count, on page 7](#)
- [set accountlocking unlocktime](#) (8 ページ)
- [set account ssorecoveryurlaccess](#) (9 ページ)
- [set account ssouidvalue](#) (10 ページ)
- [set cert bulk consolidate](#) (10 ページ)
- [set cert bulk export](#) (11 ページ)
- [set cert bulk import](#) (12 ページ)
- [set cert bulk sftp](#) (13 ページ)
- [set cert default-ca-list disable](#) (13 ページ)
- [set cert default-ca-list enable](#) (15 ページ)
- [set cert delete](#) (16 ページ)
- [set cert import](#) (17 ページ)
- [set cert regen](#) (18 ページ)
- [set cert regen ITLRecovery](#) (18 ページ)
- [set cli pagination](#) (19 ページ)
- [set cli session timeout](#) (20 ページ)
- [set commandcount](#) (21 ページ)
- [set csr gen](#) (21 ページ)
- [set cuc jetty stderrlog](#) (22 ページ)
- [set cuc jetty stdoutlog](#) (23 ページ)
- [set cuc jetty requestlog](#) (24 ページ)
- [set cuc speechview registration certificate size, on page 25](#)
- [set cuc srsv timeout](#) (25 ページ)
- [set cuc trace](#) (26 ページ)
- [set date](#) (27 ページ)
- [set dscp defaults](#) (28 ページ)
- [set dscp](#) (28 ページ)

- [set dscp marking \(29 ページ\)](#)
- [set ipsec policy_group \(30 ページ\)](#)
- [set ipsec policy_name \(30 ページ\)](#)
- [set key regen authz encryption \(31 ページ\)](#)
- [set key regen authz signing \(31 ページ\)](#)
- [set logging \(32 ページ\)](#)
- [set Login Grace Timeout \(32 ページ\)](#)
- [set network cluster publisher \(33 ページ\)](#)
- [set network cluster subscriber details \(33 ページ\)](#)
- [set network cluster subscriber dynamic-cluster-configuration \(34 ページ\)](#)
- [set network dhcp eth0 \(35 ページ\)](#)
- [set network dns \(36 ページ\)](#)
- [set network dns options \(36 ページ\)](#)
- [set network domain \(37 ページ\)](#)
- [set network failover \(38 ページ\)](#)
- [set network gateway \(38 ページ\)](#)
- [set network hostname \(39 ページ\)](#)
- [set network ip eth0 \(41 ページ\)](#)
- [set network ipv6 dhcp \(42 ページ\)](#)
- [set network ipv6 gateway \(43 ページ\)](#)
- [set network ipv6 service \(44 ページ\)](#)
- [set network ipv6 static_address \(44 ページ\)](#)
- [set network max_ip_contrack \(45 ページ\)](#)
- [set network mtu \(46 ページ\)](#)
- [set network name-service hosts cache-enable \(46 ページ\)](#)
- [set network name-service hosts max-db-size \(47 ページ\)](#)
- [set network name-service hosts negative-time-to-live \(47 ページ\)](#)
- [set network name-service hosts persistent \(48 ページ\)](#)
- [set network name-service hosts positive-time-to-live \(48 ページ\)](#)
- [set network name-service hosts suggested-size \(49 ページ\)](#)
- [set network name-service services cache-enable \(49 ページ\)](#)
- [set network name-service services max-db-size \(50 ページ\)](#)
- [set network name-service services negative-time-to-live \(50 ページ\)](#)
- [set network name-service services persistent \(51 ページ\)](#)
- [set network name-service services positive-time-to-live \(51 ページ\)](#)
- [set network name-service services suggested-size \(52 ページ\)](#)
- [set network nic eth0 \(52 ページ\)](#)
- [set network ntp option \(53 ページ\)](#)
- [set network pmtud state \(54 ページ\)](#)
- [set network restore \(54 ページ\)](#)
- [set network status eth0 \(56 ページ\)](#)

- [set network name-service](#) (56 ページ)
- [set password complexity minimum-length](#) (57 ページ)
- [set password age](#) (58 ページ)
- [set password change-at-login](#) (58 ページ)
- [set password complexity character](#) (59 ページ)
- [set password complexity character difference](#) (60 ページ)
- [set password complexity character max-repeat](#) (61 ページ)
- [set password expiry maximum-age](#) (61 ページ)
- [set password expiry user maximum-age configure](#) (62 ページ)
- [set password expiry minimum-age](#) (63 ページ)
- [set password expiry user maximum-age](#) (64 ページ)
- [set password expiry user minimum-age](#) (65 ページ)
- [set password history](#) (66 ページ)
- [set password inactivity](#) (67 ページ)
- [set password system bootloader encryptHash](#) (68 ページ)
- [set password user admin](#) (68 ページ)
- [set password user security](#) (69 ページ)
- [set replication-sync monitor](#) (70 ページ)
- [set samltrace level](#) (70 ページ)
- [set session maxlimit](#) (71 ページ)
- [set smtp](#) (71 ページ)
- [set strace enable](#) (72 ページ)
- [set strace disable](#) (72 ページ)
- [set timezone](#) (73 ページ)
- [set tls min-version](#) (74 ページ)
- [set trace disable](#) (75 ページ)
- [set trace enable](#) (75 ページ)
- [set tlsresumptiontimeout](#) (76 ページ)
- [set tlstrace*](#) (77 ページ)
- [set web-security](#) (78 ページ)
- [set webapp session timeout](#) (80 ページ)
- [set webapp session maxlimit](#) (81 ページ)
- [set workingdir](#) (84 ページ)

set account enable

このコマンドは、パスワードが非アクティブであるためにディセーブルになっていた OS ユーザアカウントをイネーブルにします。

set account enable *user-id*

構文の説明	<p>パラメータ</p> <p><i>user-id</i> デisable化されたアカウントのユーザIDを指定します。</p>
コマンドモード	<p>管理者 (admin:)</p> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル: 4</p> <p>アップグレード時の使用: 不可</p> <p>適用対象: Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection</p>

set account name

このコマンドは、オペレーティングシステム上に新規アカウントを設定します。

set account name *name*

構文の説明	<p>パラメータ</p> <p><i>name</i> 新規アカウントのユーザ名を表します。</p> <p>アルファベットのみ、または英数字 (a ~ z、A ~ D、0 ~ 9) のみで構成される名前を入力します。</p>
コマンドモード	<p>管理者 (admin:)</p>
使用上のガイドライン	<p>ユーザ名を入力すると、この新規アカウントの特権レベル (0 または 1) およびパスワードの入力を求められます。特権レベルの定義は次のとおりです。</p> <p>特権レベル 0</p> <p>通常の特権レベルを指定します。通常の特権を持つユーザは、特権レベル 0 でのみ CLI コマンドを実行できます。</p> <p>特権レベル 1</p> <p>高度な特権レベルを指定します。高度な特権を持つユーザは、特権レベル 1 以下で CLI コマンドを実行できます。</p>



(注) Unified Communications Manager のインストール中にシステムによって作成される管理者アカウントには4の特権レベルがあります。管理者は、CLIのすべてのコマンドを実行できます。

Set account name コマンドには、次の新しいプロンプトが含まれています。

- このユーザがリカバリ URL を介して SAML SSO 対応システムにログインできるようにしますか? (Yes/No) : レベル4 管理者は、CLI で **Yes** または **No** を入力することによって、新しいプラットフォーム管理者のリカバリ URL サインインオプションへのアクセスを有効または無効にすることができます。ユーザがリカバリ URL を使用してサインインすることを選択した場合は、この値を [はい (Yes)] に設定できます。
- SSO のプラットフォームログインを認証するには、このユーザを LDAP (sAMAccountName または UPN など) に識別する一意の識別子 (UID) を指定する必要があります。このユーザの適切な LDAP 一意識別子 (UID) を入力してください : [UID] : レベル4 管理者は、このプロンプトについて各プラットフォーム管理者の一意識別子の値を入力できます。



(注) レベル4の管理者のみが、すべての CLI コマンドを実行する権限を持っています。

管理者は、次のタスクを確実に実行する必要があります。

- [このユーザがリカバリ URL を介して SAML SSO 対応システムにログインできるようにしますか。(Allow this User to login to SAML SSO-enabled system through Recovery URL?)]には、[はい (Yes)]または[いいえ (No)]のいずれかを入力します。
(Yes/No) プロンプトを表示します。このプロンプト値が空白の場合は、エラーメッセージが表示されます。
- [SSO のプラットフォームログインを認証するには、このユーザをLDAP (sAMAccountName または UPN など) に対して識別する一意の識別子 (UID) を指定する必要があります。(To authenticate a platform login for SSO, a Unique Identifier (UID) must be provided that identifies this user to LDAP (such as sAMAccountName or UPN)]に、値を入力します。この **user: [UID]** プロンプトの適切な LDAP 固有識別子 (uid) を入力してください。プロンプトの値が重複している場合は、エラーメッセージが表示されます。Enter キーを押すと、デフォルトでユーザアカウント名が保存されます。アカウントが正常に作成されると、管理者には「アカウントが正常に作成されました」というメッセージが表示されます。*OS Administration* にログインする前に、*CLI* にログインしてパスワードを更新します。
- オペレーティングシステム管理ページの SAML SSO ログインの場合、LDAP ユーザが「&」文字で構成されている場合は、「&」文字なしでプラットフォームユーザを作成してから、「&」文字で構成される LDAP ユーザにマップしてください。
- オペレーティングシステム管理ページの SAML SSO ログインの場合、ユーザ ID の LDAP 属性値が `telephonenumber` の場合、必ず、英数字または英字のみで構成されるプラットフォームユーザを作成してください。数値のみのプラットフォームユーザ名を含めないでください。次に、電話番号として UID 値を持つ適切な LDAP ユーザにマップします。

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

set accountlocking

このコマンドは、現在の管理アカウントのアカウントロックをイネーブルまたはディセーブルにします。

set accountlocking {enable | disable}

構文の説明

パラメータ	説明
enable	アカウントロックをイネーブルにします。
disable	アカウントロックをディセーブルにします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン



(注) このコマンドを実行して **enable** を選択すると、監査ログ機能が有効になり、アカウントロックアウトの通知が自動的に有効にされます。

管理アカウントロック機能が有効になっている場合、ユーザがアカウントロック数を超えて間違ったパスワードを入力すると、アカウントは一定期間ロックされます。アカウントがロックされているというメッセージは、VM コンソールとセキュリティで保護されたログにのみ表示されます。

要件

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

set accountlocking count

このコマンドは、ユーザアカウントがロックされるまでのグローバルなサインイン試行回数を設定します。

set accountlocking count *attempts*

Syntax Description

パラメータ

説明

attempts

アカウントがロックされるまでのサインイン試行回数を表します。

値の範囲：2～5

デフォルト値：3

Command Modes

管理者 (admin:)

Usage Guidelines

ユーザアカウントがロックされるまでのサインイン試行回数のグローバル値を変更するには、このコマンドを実行します。



Note このコマンドは、アカウントロックがイネーブルの場合にのみ有効です。アカウントロックをディセーブルにすると、アカウントロックの値はシステムに保存されません。その後アカウントロックをイネーブルにすると、デフォルト値の3が使用されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

set accountlocking unlocktime

このコマンドは、現在の Unified Communications Manager 管理者アカウントのロックを解除する時間を設定します。

set accountlocking unlocktime *seconds*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>seconds</i>	ロックを解除する時間を秒単位で指定します。 値の範囲: 30-3600 デフォルト値: 300



- (注)
- アカウントは、設定されたロック解除時間が経過した後にのみ自動的にロック解除されます。
 - このコマンドは、アカウントロックがイネーブルの場合にのみ有効です。アカウントロックを無効にすると、アカウントロックのロック解除時間はシステムに保存されません。その後アカウントロックを有効にすると、デフォルト値の300が使用されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

set account ssorecoveryurlaccess

このコマンドは、プラットフォーム管理者の SSO リカバリ URL アクセスを有効または無効にします。



- (注) デフォルトでは、プラットフォーム管理者レベル4はリカバリ URL にアクセスできます。プラットフォーム管理者レベル4が自己のリカバリ URL アクセスを更新しようとする、エラーが表示されます。

set account ssorecoveryurlaccess {enable | disable} *userid*

構文の説明

パラメータ	説明
enable	プラットフォーム管理者のリカバリサインインオプションを有効にします。
disable	プラットフォーム管理者のリカバリサインインオプションを無効にします。
<i>userid</i>	特定の Cisco Unified オペレーティング システムの管理者アカウントを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

- (注)
- すでに有効または無効になっているリカバリサインインオプションを有効または無効にすると、エラーが表示されます。
 - Unified Communications Manager のインストール時にシステムによって作成される管理者アカウントには4の特権レベルがあります。管理者は、CLIのすべてのコマンドを実行できます。

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

set account ssoidvalue

このコマンドは、既存のプラットフォーム管理者の一意の id 値を更新します。

set account ssoidvalue *userid*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>userid</i>	固有識別子の値を更新する必要がある特定の Cisco ユニファイドオペレーティングシステムの管理者アカウントを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

- (注)
- **Set account ssoidvalue userid** コマンドを実行すると、UID 値を入力するためのプロンプトが表示されます。UID 値が空白の場合、samaccountname はデフォルトで ssoidvalue として保存されます。
 - 重複する UID 値が存在する場合は、エラーが表示されます。

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

set cert bulk consolidate

このコマンドは、ユニットで使用可能なすべての証明書を統合します。

set cert bulk consolidate *unit*

構文の説明	<p>パラメータ</p> <hr/> <p><i>unit</i> ユニット名を表します。</p> <hr/>
コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p>CERT の一括操作に使用する SFTP サーバ情報を指定する必要があります。</p> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の使用：可能</p> <p>適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。</p> <p>関連トピック</p> <p>set cert bulk sftp (13 ページ)</p>

set cert bulk export

このコマンドは、ユニットで使用可能なすべての証明書をエクスポートします。

set cert bulk export *unit*

構文の説明	<p>パラメータ</p> <hr/> <p>export このクラスタ内のこのユニットに使用可能なすべての証明書を、事前に設定した SFTP ロケーションにエクスポートします。</p> <hr/> <p><i>unit</i> ユニット名を表します。</p> <hr/>
コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p>CERT の一括操作に使用する SFTP サーバ情報を指定する必要があります。</p> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の使用：可能</p> <p>適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。</p>

例

```
admin:set cert bulk export all
Successfully exported tomcat certificate(s) to sftp server.
Successfully exported tftp certificate(s) to sftp server.
```

関連トピック

[set cert bulk sftp](#) (13 ページ)

set cert bulk import

このコマンドは、SFTP の場所にある証明書を指定されたユニットの信頼ストアにインポートします。

set cert bulk import *unit*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>unit</i>	ユニット名を表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

CERT の一括操作に使用する SFTP サーバ情報を指定する必要があります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set cert bulk import all
Successfully imported tomcat certificates.
Successfully imported tftp certificates.
```

関連トピック

[set cert bulk sftp](#) (13 ページ)

set cert bulk sftp

このコマンドは、一括操作に使用する SFTP サーバ情報のプロンプトを表示します。

set cert bulk sftp

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン CERT の一括操作に使用する SFTP サーバ情報を指定する必要があります。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set cert default-ca-list disable

このコマンドは、クラスタ内のすべてのサーバで、すべてまたは特定のデフォルト CA 証明書を無効にします。

このコマンドを実行しようとする、この操作ですべてまたは特定のデフォルトの Cisco CA 証明書が無効になっていることを示す警告メッセージが表示されます。

```
set cert default-ca-list disable {all | common-name}
```



- (注)
- このコマンドは、ユニファイドコミュニケーションスマネージャパブリッシュャノードから実行していることを確認してください。
 - デフォルトの CA 証明書名は、**show cert default-ca list** コマンドを実行することによって取得できます。

構文の説明

パラメータ	説明
all	クラスタ内のすべてのサーバからデフォルトの CA 証明書をすべて削除します。
common-name	クラスタ内のすべてのサーバから、特定のデフォルト CA 証明書を削除します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン すべてのデフォルト CA 証明書を無効にした後、次の情報を考慮してください。

- 「Cisco tomcat」、「Cisco CallManager」、「Cisco Tftp」、および「cisco Certificate Authority Proxy Function」サービスを再起動します。

特定のデフォルト CA 証明書を無効にした後、次の情報を考慮してください。

- 「Cisco CallManager」、「cisco Tftp」、および「Cisco Certificate Authority Proxy Function」サービスを再起動します。
- 「VeriSign Class 3 Secure SERVER CA-G3」証明書を無効にしている場合は、「Cisco tomcat」サービスのみを再起動するだけで十分です。

要件

コマンド特権レベル : 1

適用対象 : Unified Communications Manager

例

```
admin:set cert default-ca-list disable all
```

```
WARNING: This operation will disable all Cisco CA certificates that have been installed
by default. You can use the "show cert default-ca-list" to view the list of default
Cisco CA certificates.
```

```
You must restart the "Cisco Tomcat", "Cisco CallManager", "Cisco Tftp" and
"Cisco Certificate Authority Proxy Function" services after running this command.
This command should be run from the Publisher.
```

```
Do you wish to proceed (yes|no)? yes
```

```
Successfully disabled the default Cisco CA certificates.
```

```
Please wait for a few min to UI to reflect the correct status.
```

```
admin:set cert default-ca-list disable common-name
```

```
Enter the Common Name of Default CA Certificate : CAP-RTP-001
```

```
WARNING: This operation will disable the "CAP-RTP-001" Cisco CA certificate.
```

```
You must restart the "Cisco CallManager", "Cisco Certificate Authority Proxy Function"
and
```

```
"Cisco Tftp" services after running this command. This command should be run from the
Publisher.
```

```
Do you wish to proceed (yes|no)? yes
```

```
Successfully disabled default "CAP-RTP-001" certificate.
```

```
admin:set cert default-ca-list disable common-name
```

```
Enter the Common Name of Default CA Certificate : VeriSign Class 3 Secure Server CA -
G3
```

```
WARNING: This operation will disable the "VeriSign Class 3 Secure Server CA - G3" Cisco
CA
```

```
certificate. You must restart the "Cisco Tomcat" services after running this command.
This command should be run from the Publisher.
```

```
Do you wish to proceed (yes|no)? yes
```

```
Successfully disabled default "VeriSign Class 3 Secure Server CA - G3" certificate.
```

```
admin:set cert default-ca-list enable common-name
```

```
Enter the Common Name of Default CA Certificate : capf
```

```
The capf certificate is not in the list of default Cisco CA certificates.
```

```
admin:
```

set cert default-ca-list enable

このコマンドは、クラスタ内のすべてのサーバで、CAPF信頼を除くすべてまたは特定のデフォルト CA 証明書を有効にします。CAPF 信頼証明書は、クラスタ全体ではなく、ユニファイドコミュニケーションマネージャパブリッシュャノードでのみ有効になります。

このコマンドを実行しようとする、この操作によって、すべてまたは特定のデフォルトの Cisco CA 証明書が信頼できる証明書として有効になることを示す警告メッセージが表示されません。

```
set cert default-ca-list enable {all | common-name}
```



- (注)
- このコマンドは、ユニファイドコミュニケーションマネージャパブリッシュャノードから実行していることを確認してください。
 - デフォルトの CA 証明書名は、**show cert default-ca list** コマンドを実行することによって取得できます。

構文の説明

パラメータ	説明
all	クラスタ内のすべてのサーバのデフォルトの CA 証明書をすべて有効にします。
common-name	クラスタ内のすべてのサーバで特定のデフォルト CA 証明書を有効にします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

すべてのデフォルト CA 証明書を有効にした後、次の情報を考慮してください。

- 「Cisco Tomcat」、「Cisco CallManager」、「Cisco Tftp」、「Cisco Certificate Authority Proxy Function」サービスを再起動します。

特定のデフォルト CA 証明書を有効にした後、次の情報を考慮してください。

- 「Cisco CallManager」、「Cisco Tftp」、「Cisco Certificate Authority Proxy Function」サービスを再起動します。
- 「VeriSign Class 3 Secure SERVER CA-G3」証明書を有効にしている場合は、「Cisco tomcat」サービスのみを再起動するだけで十分です。

要件

コマンド特権レベル：1

適用対象 : Unified Communications Manager

例

```
admin:set cert default-ca-list enable all
```

```
WARNING: This operation will enable all default Cisco CA certificates
as trusted certificates for all nodes in this cluster.
You can use the "show cert default-ca-list" to view the list of default
Cisco CA certificates. You must restart the "Cisco Tomcat", "Cisco CallManager",
"Cisco Tftp" and "Cisco Certificate Authority Proxy Function" services after
running this command. This command should be run from the Publisher.
Do you wish to proceed (yes|no)? yes
Successfully enabled the default Cisco CA certificates.
Please wait for a few minutes for the UI to reflect the correct status.
```

```
admin:set cert default-ca-list enable common-name
Enter the Common Name of Default CA Certificate : CAP-RTP-002
WARNING: This operation will install the "CAP-RTP-002" certificate as a trusted certificate
for all nodes in this cluster. You must restart the "Cisco CallManager",
"Cisco Certificate Authority Proxy Function" and "Cisco Tftp" services after running
this
command. This command should be run from the Publisher.
Do you wish to proceed (yes|no)? yes
Successfully enabled default "CAP-RTP-002" certificate.
```

```
admin:set cert default-ca-list enable common-name
Enter the Common Name of Default CA Certificate : VeriSign Class 3 Secure Server CA -
G3
WARNING: This operation will install the "VeriSign Class 3 Secure Server CA - G3"
certificate
as a trusted certificate for all nodes in this cluster. You must restart the "Cisco
Tomcat"
services after running this command. This command should be run from the Publisher.
Do you wish to proceed (yes|no)? yes
Successfully enabled default "VeriSign Class 3 Secure Server CA - G3" certificate.
```

```
admin:set cert default-ca-list enable common-name
Enter the Common Name of Default CA Certificate : CAP-RTP-003
The CAP-RTP-003 certificate is not in the list of default Cisco CA certificates.
admin:
```

set cert delete

このコマンドは、信頼ユニットから特定の証明書ファイルを削除します。

```
set cert delete unit name
```

構文の説明

パラメータ	説明
<i>unit</i>	信頼カテゴリの名前を「own」または「trust」に指定します。
<i>name</i>	証明書のファイル名です。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set cert delete cucm siptest.pem
```

set cert import

このコマンドは、指定された証明書のタイプの指定された証明書をインポートします。

```
set cert import type name [caCert]
```

構文の説明

パラメータ	説明
-------	----

<i>type</i>	証明書のタイプを「own」または「trust」に指定します。
-------------	--------------------------------

<i>name</i>	ユニット名を表します。
-------------	-------------

[<i>caCert</i>]	CA 証明書ファイルの名前を表します。
-------------------	---------------------

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set cert import trust tomcat
Successfully imported certificate for tomcat.
Please restart services related to tomcat for the new certificate to
become active.
```

set cert regen

このコマンドは、指定されたユニットの認証を再生成します。

set cert regen *name*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>name</i>	ユニット名を表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set cert regen tomcat
Successfully regenerated certificate for tomcat.
```

set cert regen ITLRecovery

このコマンドは、指定されたユニットの ITLRecovery 認証を再生成します。

このコマンドを入力すると、トークンレス CTL を使用していて、CallManager 証明書を再生成する場合に、CTL ファイルに更新された CallManager 証明書があり、その証明書が更新されていることを示す警告メッセージが表示されます。点間. 証明書を再生成するには、**yes** と入力します。そうでない場合は、**no** と入力します。

set cert regen *ITLRecovery*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>ITLRecovery</i>	ITLRecovery 証明書を表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件



注意 アクティブになるように再生成された証明書の ITLRecovery に関連するサービスを再起動する必要があります。

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set cert regen ITLRecovery
```

```
WARNING: If you are using a tokenless CTL and if the CallManager certificate is recently
generated, please ensure that the CTL File already has the new CallManager certificate
and is
updated to the endpoints, before generating the ITL Recovery certificate. Are you sure
want
to proceed?
```

```
Proceed with regeneration (yes|no)? yes
```

```
Successfully Regenerated Certificate for ITLRecovery.
```

```
You must restart the services related to ITLRecovery for the regenerated certificates
to
become active.
```

set cli pagination

このコマンドは、現在の CLI セッションで自動改ページをオンまたはオフにします。

```
set cli pagination {on | off}
```

構文の説明

パラメータ	説明
on	改ページをオンにします。
off	改ページをオフにします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

```
admin:set cli pagination off
Automatic pagination is turned off
```

set cli session timeout

このコマンドは、アクティブな CLI セッションがタイムアウトし切断されるまでの時間を分単位で設定します。

set cli session timeout *minutes*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>minutes</i>	アクティブな CLI セッションがタイムアウトし切断されるまでの時間を分単位で指定します。
	<ul style="list-style-type: none"> 値の範囲：5 ~ 99999 分 デフォルト値：30 分

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

新しいセッションタイムアウト値は、新しい CLI セッションでただちに有効になることに注意してください。ただし、アクティブセッションは元のタイムアウト値を保持します。また、`show cli session timeout` コマンドでは、現在のセッションが新しい値を使用していない場合でも、その値が反映されます。



(注) この設定は、ソフトウェアアップグレードによって維持され、デフォルト値にリセットされません。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set commandcount

このコマンドは、CLI コマンドプロンプトを変更して、実行済みの CLI コマンドの数が表示されるようにします。

set commandcount {enable | disable}

構文の説明

パラメータ	説明
-------	----

enable	コマンドの数のカウントをオンにします。
---------------	---------------------

disable	コマンドの数のカウントをオフにします。
----------------	---------------------

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set csr gen

このコマンドは、ユニット名の csr を生成します。

set csr gen *name*

構文の説明

パラメータ	説明
-------	----

<i>name</i>	証明書を生成するユニットを指定します。
-------------	---------------------

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set csr gen tomcat
Successfully Generated CSR for tomcat.
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set cuc jetty stderrlog

このコマンドは、Jetty サーバとの通信中に発生する場合のある標準エラーのエラー ログの生成をイネーブルまたはディセーブルにします。このエラー ログが生成されると、パス `/var/log/active/jetty/` から入手可能になります。

set cuc jetty stderrlog {enable | disable}

構文の説明	パラメータ	説明
	enable	Jetty サーバのエラー ログをイネーブルにします。 enable では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
	disable	Jetty サーバのエラー ログをディセーブルにします。 disable では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン



注意 Jetty サーバのエラー ログをイネーブルまたはディセーブルにした後は、Jetty サービスを再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Cisco Unity Connection のみ。

Jetty サーバのエラー ログをイネーブルにする例

```
admin:set cuc jetty stderrlog enable
```

```
Command is executed successfully
To effect changes restart jetty server
Restart Jetty Server through Unity Connection Serviciability .
Go to Tools -> Service Management -> Restart Connection Jetty Service.
Check the logs that should not be generated after running above command.
Check the requestlog by sending one voice message through webinbox.
Notifications should not come in logs
```

set cuc jetty stdoutlog

このコマンドは、Jetty サーバとの通信中に生成される標準の入力および出力ログをイネーブルまたはディセーブルにします。この標準の入力および出力ログが生成されると、パス `/var/log/active/jetty/` から入手可能になります。

set cuc jetty stdoutlog {enable | disable}

構文の説明	パラメータ	説明
	enable	Jetty サーバの標準の入力および出力ログをイネーブルにします。 enable では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
	disable	Jetty サーバの標準の入力および出力ログをディセーブルにします。 disable では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン



注意 Jetty サーバの標準の入力および出力ログをイネーブルまたはディセーブルにした後は、Jetty サービスを再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Cisco Unity Connection のみ。

Jetty サーバの標準の入力および出力ログをイネーブルにする例

```
admin:set cuc jetty stdoutlog enable
```

```
Command is executed successfully
```

```
To effect changes restart jetty server
```

```
Restart Jetty Server through Unity Connection Serviciability .
```

```
Go to Tools -> Service Management -> Restart Connection Jetty Service.
```

```
Check the logs that should not be generated after running above command.
```

```
Check the requestlog by sending one voice message through webinbox.
```

```
Notifications should not come in logs
```

set cuc jetty requestlog

このコマンドは、すべての要求が通知される場合に、Jetty サーバから生成された要求ログをイネーブルまたはディセーブルにします。この要求ログが生成されると、パス /usr/local/jetty/logs/ から入手可能になります。

```
set cuc jetty requestlog {enable | disable}
```

構文の説明	パラメータ	説明
	enable	Jetty サーバの要求ログをイネーブルにします。「enable」では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
	disable	Jetty サーバの要求ログをディセーブルにします。「disable」では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン



注意 Jetty サーバの要求ログをイネーブルまたはディセーブルにした後は、Jetty サービスを再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Cisco Unity Connection のみ。

Jetty サーバの要求ログをイネーブルにする例

```
admin:set cuc jetty requestlog enable
```

```
Command is executed successfully
To effect changes restart jetty server
Restart Jetty Server through Unity Connection Serviciability .
Go to Tools -> Service Management -> Restart Connection Jetty Service.
Check the logs that should not be generated after running above command.
Check the requestlog by sending one voice message through webinbox.
Notifications should not come in logs
```

set cuc speechview registration certificate size

このコマンドでは、スピーチの新しい証明書ビットサイズを設定します。文字サービス登録と、文字変換サーバを使用したボイスメール変換が設定されます。

set cuc speechview registration certificate size bit_size

Syntax Description	パラメータ	説明
	bit_size	証明書の bit_size を指定します。許可されている値は、1000、2000、4000 です。
Command Modes	管理者 (admin:)	
Usage Guidelines	必要な証明書のビットサイズを設定するには、 set cuc speechview registration certificate size (Cisco Unity Connection Only) コマンドを使用します。この CLI は、パブリッシャで実行する必要があります。これにより、Connection SpeechView Processor サービスが再起動されます。	

要件

コマンド特権レベル：4

set cuc srsv timeout

このコマンドは、SRSV セッションタイムアウトの値を設定します。

```
set cuc srsv timeout timeout_value
```

構文の説明	<p>パラメータ 説明</p> <p><i>timeout_value</i> セッションログアウトの時間を設定します。</p>
-------	---

コマンドモード	<p>管理者 (admin:)</p> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の使用 : 不可</p> <p>適用対象 : Cisco Unity Connection</p>
---------	--

set cuc trace

このコマンドを使用すると、指定されたトレースおよびトレース レベルをイネーブルまたはディセーブルにすることができます。

set cuc trace {enable | disable} *trace_name* レベル

構文の説明	<p>パラメータ 説明</p> <p>enable Connection トレースをイネーブルにします。</p> <p>disable Connection トレースをディセーブルにします。</p> <p><i>trace_name</i> イネーブルまたはディセーブルにするトレースの名前を指定します。トレース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。</p> <p><i>level</i> イネーブルまたはディセーブルにする <i>trace_name</i> のレベルを指定します。各トレースは、最大で 31 のレベルから構成され、0 から 30 の番号が付けられます。指定されたトレースに関して、各レベルに応じて異なるタイプの情報が提供されます。複数のレベルをイネーブルまたはディセーブルにする場合は、カンマを使用してレベルを区切り、ハイフンを使用してレベルの範囲を表すことができます。スペースは使用できません。</p>
-------	--

コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p>現在有効になっているトレースとトレース レベルのリストを表示するには、show cuc trace levels コマンド (Cisco Unity Connection のみ) を使用します。</p>

要件	<p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の使用 : 不可</p>
-----------	--

適用対象：Cisco Unity Connection のみ。

VUI トレース 1、13、および 17～20 をイネーブルにする例

```
admin:set cuc trace enable VUI 1,13,17-20
VUI trace levels are now set to: 1,13,17-20
```

VUI トレース レベルが 1 および 13 に設定されている状態で VUI トレース 17～20 をディセーブルにする例

```
admin:set cuc trace disable VUI 17-20
VUI trace levels are now set to: 1,13
```

関連トピック

[show cuc trace levels](#)

set date

このコマンドは、サーバの時刻と日付を変更します。

set date *HH:mm:ss:MM/DD/YY*

構文の説明

パラメータ 説明

HH:mm:ss 時間形式（24 時間形式）を表します。

MM/DD/YY 日付形式を表します。

（注） 日付形式 *MM/DD/YYYY* も指定できます。

コマンドモード

管理者（admin:）

使用上のガイドライン

サーバが外部 NTP サーバと同期するように設定されている場合、このコマンドを使用するには、これらの NTP サーバをすべて削除する必要があります。

要件

適用対象：Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection。

日時を 2012 年 4 月 13 日午後 2 時 10 分 33 秒に設定する例

```
admin:set date 14:10:33:04/13/12
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set dscp defaults

このコマンドは、すべてのポート タグを工場出荷時の DSCP 設定に設定します。

set dscp defaults**コマンドモード**

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドを実行すると、デフォルト以外のすべての DSCP 設定が削除されます。

show dscp defaults コマンドを使用して、工場出荷時の DSCP 設定を確認できます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set dscp

このコマンドは、発信 TCP または UDP パケットの DSCP マーキングをイネーブルまたはディセーブルにします。単一のポート タグ、またはすべてのポート タグの DSCP を一度にイネーブルまたはディセーブルにできます。

```
set dscp {enable | disable} {all|port_tag}
```

構文の説明

パラメータ	説明
all	すべての DSCP ポート タグをディセーブルにします。
port_tag	DSCP ポート タグを表します。DSCP ポート タグとは、ポートを使用するアプリケーションを識別するために TCP または UDP ポートにマッピングされている文字列です。これは、 show dscp defaults コマンドを使用する際に表示される [portTag] フィールドのための値です。ポート タグの設定は事前に定義されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set dscp marking

このコマンドは、既知の DSCP クラスおよび数値を使用して、ポートタグの DSCP マーキングを設定します。

set dscp marking *port_tag* 値

構文の説明

パラメータ 説明

port_tag DSCP ポートタグを表します。DSCP ポートタグとは、ポートを使用するアプリケーションを識別するために TCP または UDP ポートにマッピングされている文字列です。これは、**show dscp defaults** コマンドを使用する際に表示される [portTag] フィールドのための値です。ポートタグの設定は事前に定義されます。

value DSCP の値です。既知の DSCP クラスの名前を入力するか、または数値を 10 進表記または 16 進表記で入力できます。16 進表記の数値の前に 0x または 0X を付けます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

DSCP で定義される有効なクラス名は、次のとおりです。

- クラスセレクタの値：CS0、CS1、CS2、CS3、CS5、CS6、CS7

クラスセレクタ (CS) の値は IP Precedence の値に対応し、IP Precedence と完全に互換性があります。

- 緊急転送の値：EF

EF PHB は、低帯域幅、保証帯域幅、少ない遅延、少ないジッタを必要とする VoIP などのアプリケーションに適しています。

- ベストエフォートの値：BE

この値はデフォルト PHB とも呼ばれ、基本的に 0x00 とマークされるパケットを指定します。

また、ネットワーク ルータからの従来のベストエフォート型のサービスを取得します。

- 確認転送の値：AF11、AF12、AF13、AF21、AF22、AF23、AF41、AF42、AF43

確認転送クラスは4種類あり、それぞれ3つのドロップ優先順位があります。

これらの優先順位の値は、パケットがネットワークの輻輳によってドロップされる順序を定義します（必要な場合）。たとえば、AF13クラスのパケットはAF12のパケットの前にドロップされます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set ipsec policy_group

このコマンドは、指定されたポリシーグループ名の ipsec ポリシーをイネーブルにします。

```
set ipsec policy_group {ALLgroup}
```

構文の説明	パラメータ	説明
	ALL	すべての ipsec ポリシーグループをイネーブルにします。
	<i>group</i>	イネーブルにする特定の ipsec ポリシーグループの名前を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection。

set ipsec policy_name

このコマンドは、特定の ipsec ポリシーをイネーブルにします。

```
set ipsec policy_name {ALLpolicy_name}
```

構文の説明	パラメータ	説明
	ALL	すべての ipsec ポリシーをイネーブルにします。
	<i>policy_name</i>	イネーブルにする特定の ipsec ポリシーの名前を指定します。

コマンドモード	管理者 (admin:)
	要件
	コマンド特権レベル：1
	アップグレード時の使用：不可
	適用対象：Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection。

set key regen authz encryption

Unified Communications Manager のパブリッシャ ノードでこのコマンドを実行すると、Cisco Jabber 認証で使用される OAuth アクセス トークンおよび更新トークンを暗号化する対称暗号キーを再生成できます。

コマンドモード	管理者 (admin:)
	要件
	コマンド特権レベル：4
	アップグレード時の使用：不可
	適用対象：Unified Communications Manager、IM and Presence サービス。

set key regen authz signing

Unified Communications Manager のパブリッシャ ノードでこのコマンドを実行すると、Cisco Jabber 認証で使用される OAuth アクセス トークンおよび更新トークンに署名するための非対称 RSA キー ペアを再生成できます。

コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	要件
	コマンド特権レベル：4
	アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、IM and Presence サービス。

set logging

このコマンドを使用すると、CLI Admin ログをイネーブルまたはディセーブルにすることができます。

set logging {enable | disable}

構文の説明

パラメータ	説明
enable	ロギングをオンにします。
disable	ロギングをオフにします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set Login Grace Timeout

このコマンドを使用すると、指定した値に LoginGraceTimeout 値を設定できます。

set Login Grace Timeout *LoginGraceTimeout value*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>LoginGraceTimeout value</i>	ログイン猶予タイムアウトの LoginGraceTimeout 値を設定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network cluster publisher

このコマンドは、ネットワーク クラスタ パブリッシャのホスト名および IP アドレスを設定します。

```
set network cluster publisher {hostname | ip} name
```

構文の説明	パラメータ	説明
	hostname	ネットワーク クラスタのホスト名を指定します。
	ip	ネットワーク クラスタの IP アドレスを指定します。
	<i>name</i>	ネットワーク クラスタ パブリッシャに割り当てるホスト名または IP アドレスです。

コマンド モード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network cluster subscriber details

Tomcat Web サーバがダウンして GUI にアクセスできない間は、このコマンドを使用してサブスクリライバを processnode または appserver テーブルに追加します。

```
set network cluster subscriber details サーバタイプ hostname ip domainname
```

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>servertype</i>	このパラメータには、Unified Communications Manager、IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection のいずれかの製品を選択します。このフィールドは必須です。

パラメータ	説明
<i>hostname</i>	クラスタに追加するノードのホスト名。ホスト名は同じドメインでサポートされます。このフィールドは必須です。
<i>ip</i>	クラスタに追加するノードのIPv4アドレス。IM and Presence パブリッシャおよび Cisco Unity Connection の場合、これは必須フィールドです。
<i>domainname</i>	IM and Presence サービス パブリッシャのドメイン名。IM and Presence パブリッシャの場合、これは必須フィールドです。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

ユニファイドコミュニケーションマネージャ、IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection に適用されます。

set network cluster subscriber dynamic-cluster-configuration

パブリッシャでダイナミッククラスタ設定をイネーブルにするには、このコマンドを使用します。このコマンドを使用して、ユーザがサブスライバノードをパブリッシャサーバテータルに追加できる期間を指定します。サブスライバノードの追加はただちに認証されるため、これらのノードは、サブスライバノードのインストール時に、パブリッシャの詳細を待機する必要はありません。

set network cluster subscriber dynamic-cluster-configuration {default | no. of hours}

構文の説明

パラメータ	説明
default	24時間ダイナミッククラスタ設定をイネーブルにします。
no. of hours	1 ~ 24 時間の値を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

ユニファイドコミュニケーションマネージャ、IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection に適用されます。

set network dhcp eth0

このコマンドは、イーサネット インターフェイス 0 の DHCP をイネーブルまたはディセーブルにします。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

```
set network dhcp eth0 {enable | disable} {node_ip net_mask gateway_ip}
```

構文の説明

パラメータ	説明
eth0	イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
enable	DHCP をイネーブルにします。
disable	DHCP をディセーブルにします。
<i>node_ip</i>	サーバの固定 IP アドレスを表します。
<i>net_mask</i>	サーバのサブネット マスクを表します。
<i>gateway_ip</i>	デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

注意 続行すると、システムが再起動されます。いずれかの IP アドレスを変更した場合は、必ずすべてのノードを再起動することをお勧めします。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network dns

プライマリまたはセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

```
set network dns {primary | secondary} addr
```

構文の説明	パラメータ	説明
	primary	
	secondary	
	<i>addr</i>	プライマリまたはセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを表します。

コマンドモード	管理者 (admin:)
	要件
	コマンド特権レベル : 1
	アップグレード時の使用 : 不可
	適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。



(注) DNS サーバの IP アドレスを変更する場合は、ユーティリティシステム再起動 CLI コマンドを使用してサーバを再起動する必要があります。

set network dns options

DNS オプションを設定します。

```
set network dns options [{timeoutseconds}] [{attemptsnumber}] [{rotate}]
```

構文の説明	パラメータ	説明
	timeout	DNS タイムアウトを設定します。
	attempts	DNS 要求の試行回数を設定します。
	rotate	設定されている DNS サーバのローテーションを行い、負荷を分散させます。
	<i>seconds</i>	DNS タイムアウト時間を秒単位で指定します。

パラメータ	説明
<i>number</i>	試行回数を指定します。

使用上のガイドライン このコマンドを実行すると、システムが自動的に再起動します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network domain

システムのドメイン名を設定します。



(注) ドメイン名を変更すると、アップロードされたすべてのサードパーティ製の署名付き証明書を含むすべての Unified Communications Manager 証明書が自動的に再生成されます。サーバが自動的に再起動した後、セキュア（混合）モードで動作する電話機は、CTL クライアントによる電話機の新しい CTL ファイルへの更新を終了するまでサーバに接続できません。



(注) 電話機が正しく登録されるように、サーバを 1 台ずつ再起動します。ドメイン名の変更方法の詳細については、『*Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

set network domain [*domain-name*]

構文の説明

パラメータ	説明
<i>domain_name</i>	割り当てるシステムドメインを表します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意 続行すると、ネットワーク接続が一時的に切断されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network failover

このコマンドは、Media Convergence Server ネットワーク インターフェイス カードの Network Fault Tolerance をイネーブルまたはディセーブルにします。

set network failover {**ena** | **dis**}

構文の説明

パラメータ	説明
ena	Network Fault Tolerance をイネーブルにします。
dis	Network Fault Tolerance をディセーブルにします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network gateway

ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

set network gateway *addr*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>addr</i>	割り当てるネットワークゲートウェイのIPアドレスを表します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意 続行すると、システムが再起動されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network hostname

このコマンドは、管理者がネットワークホスト名を設定し、ノードのIPアドレスを変更し、システムを再起動できるようにします。

このコマンドを試みる前に、管理者は有効なDRFバックアップを持っている必要があります。また、ホスト名（またはホスト名とIPアドレス）の変更を試みる前に、管理者は次を実行する必要があります。

- **show hcs cluster verify detailed** を実行し、クラスタ設定に設定上の問題がないことを確認します
- **set hcs cluster config** を実行し、クラスタ設定を更新します
- **show hcs cluster verify detailed** を実行し、クラスタ設定を確認します

set network hostname *hostname*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>hostname</i>	システムの新しいネットワークホスト名を表します。
	(注)	このホスト名は、ARPANETホスト名の規則に従う必要があります。先頭と末尾はアルファベット文字でなければならない、それ以外の部分には英数字、ハイフンを使用できます。ホスト名の長さは63文字までです。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意 続行すると、システムが再起動されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set network hostname
```

```
WARNING: Changing this setting will invalidate software license
on this server. The license will have to be re-hosted.
```

```
Continue(y/n):
```

```
Continue (y/n)?y
```

```
ctrl-c: To quit the input.
```

```
*** W A R N I N G ***
```

```
Do not close this window without first canceling the command.
```

```
This command will automatically restart system services.
The command should not be issued during normal operating
hours.
```

```
=====  
Note: Please verify that the new hostname is a unique  
name across the cluster and, if DNS services are  
utilized, any DNS configuration is completed  
before proceeding.  
=====
```

```
Security Warning : This operation will regenerate  
all CUCM Certificates including any third party  
signed Certificates that have been uploaded.
```

```
Enter the hostname:: app-lfwelty5
```

```
Would you like to change the network ip address at this time [yes]::
```

```
Warning: Do not close this window until command finishes.
```

```
ctrl-c: To quit the input.
```



```

*** W A R N I N G ***
=====
Note: Please verify that the new ip address is unique
across the cluster.
=====

Enter the ip address:: 106.1.34.154
Enter the ip subnet mask:: 255.0.0.0
Enter the ip address of the gateway:: 106.1.1.1
Hostname: app-lfwelty5
IP Address: 106.1.34.154
IP Subnet Mask: 255.0.0.0
Gateway: 106.1.1.1

Do you want to continue [yes/no]? yes
...

```



- (注) 管理者は [yes] を応答することによって、ホスト名と IP アドレスの両方を変更できます。ホスト名だけを変更するには、[no] を応答します。

set network ip eth0

イーサネットインターフェイス 0 の IP アドレスを設定します。イーサネットインターフェイス 1 は設定できません。

このコマンドを試みる前に、管理者は有効な DRF バックアップを持っている必要があります。また、IP アドレスの変更を試みる前に、管理者は次を実行する必要があります。

- **show hcs cluster verify detailed** を実行し、クラスタ設定に設定上の問題がないことを確認します
- **set hcs cluster config** を実行し、クラスタ設定を更新します
- **show hcs cluster verify detailed** を実行し、クラスタ設定を確認します

```
set network ip eth0 addr mask gw
```

構文の説明

パラメータ	説明
eth0	イーサネットインターフェイス 0 を指定します。
<i>addr</i>	割り当てる IP アドレスを表します。
<i>mask</i>	割り当てる IP マスクを表します。

パラメータ	説明
gw	割り当てる IP デフォルトゲートウェイを表します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意 続行すると、このコマンドは次のサービスを再起動します。

- NIC ドライバ
- NTP
- CLM
- サービスマネージャ

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network ipv6 dhcp

このコマンドは、サーバ上の DHCPv6 クライアントを設定し、IPv6 サポートをイネーブルにします。変更を反映するには、サーバを再起動する必要があります。

set network ipv6 dhcp {enable | disable} [reboot]

構文の説明

パラメータ	説明
dhcp	サーバ上の DHCPv6 クライアントを設定します。デフォルトでは、DHCPv6 クライアントをイネーブルにした後でサーバは再起動されません。変更を反映するには、reboot パラメータを指定するか手動でサーバを再起動することによって、サーバを再起動する必要があります。
enable	IPv6 サポートをイネーブルにします。
disable	IPv6 サポートをディセーブルにします。

パラメータ	説明
-------	----

reboot	(任意) コマンドの入力後にサーバが自動的に再起動するようにします。
---------------	------------------------------------

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル: 1

アップグレード時の使用: 不可

適用対象: Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network ipv6 gateway

このコマンドは、サーバの IPv6 ゲートウェイを設定します。変更を反映するには、サーバを再起動する必要があります。

```
set network ipv6 gateway addr [reboot]
```

構文の説明

パラメータ	説明
-------	----

gateway	サーバの IPv6 ゲートウェイを設定します。デフォルトでは、サーバの IPv6 ゲートウェイを設定した後は再起動されません。変更を反映するには、 reboot パラメータを指定するか手動でサーバを再起動することによって、サーバを再起動する必要があります。
----------------	---

<i>addr</i>	IPv6 ゲートウェイアドレスです。
-------------	--------------------

reboot	(任意) コマンドの入力後にサーバが自動的に再起動するようにします。
---------------	------------------------------------

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル: 1

アップグレード時の使用: 不可

適用対象: Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network ipv6 service

このコマンドは、サーバ上の IPv6 サービスをイネーブルまたはディセーブルにします。変更を反映するには、サーバを再起動する必要があります。

set network ipv6 service {enable | disable} [reboot]

構文の説明

パラメータ	説明
service	サーバ上の IPv6 サービスを設定します。デフォルトでは、サーバの IPv6 サービスをイネーブルまたはディセーブルに設定した後は再起動されません。変更を反映するには、 reboot パラメータを指定するか手動でサーバを再起動することによって、サーバを再起動する必要があります。
enable	サーバの IPv6 サービスをイネーブルにします。
disable	サーバの IPv6 サービスをディセーブルにします。
reboot	(任意) コマンドの入力後にサーバが自動的に再起動するようにします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network ipv6 static_address

このコマンドは、サーバに固定 IPv6 アドレスを割り当てます。変更を反映するには、サーバを再起動する必要があります。

set network ipv6 static_address *addr mask* [reboot]

構文の説明

パラメータ	説明
static_address	サーバに固定 IPv6 アドレスを割り当てます。デフォルトでは、固定 IPv6 アドレスを割り当てた後でサーバは再起動されません。変更を反映するには、 reboot パラメータを指定するか手動でサーバを再起動することによって、サーバを再起動する必要があります。
addr	サーバに割り当てる固定 IPv6 アドレスを指定します。

パラメータ	説明
<i>mask</i>	IPv6 ネットワーク マスク (0 ~ 128) を指定します。
reboot	(任意) コマンドの入力後にサーバが自動的に再起動するようにします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network max_ip_contrack

このコマンドは ip_contrack_max 値を設定します。

set network max_ip_contrack *ip_contrack_max value*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>ip_contrack_max value</i>	ip_contrack_max の値を指定します。
(注)	ip_contrack_max の値は 65536 以上である必要があります。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

例

admin:set network max_ip_contrack 65536

set network mtu

最大 MTU 値を設定します。

set network mtu *mtu_max*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>mtu_max</i>	最大 MTU 値を指定します。システムのデフォルトの MTU 値は 1500 です。
注意	UDP ポート 8500 上の DF ビットセットを持つパケットがノード間で交換される場合、WAN ルータに DF ビットをクリアして大きいパケットをフラグメント化するポリシーが適用されていると、dbreplication の問題が発生する可能性があります。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意 続行すると、システムのネットワーク接続が一時的に失われます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set network mtu 576      W A R N I N G
This will cause the system to temporarily lose network connectivity
Do you want to continue ?
Enter "yes" to continue or any other key to abort
yes
executing...
```

set network name-service hosts cache-enable

このコマンドは、nscd 関連のキャッシュを有効にします。

set network name-service hosts cache-enable *value*

構文の説明	<p>パラメータ</p> <p><i>value</i> ブール値は、<i>yes</i>または<i>no</i>のいずれかにする必要があります。</p>
コマンドモード	<p>管理者 (admin:)</p> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の使用：可能</p> <p>適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。</p>

set network name-service hosts max-db-size

このコマンドは、サービスの最大許容サイズを設定します。

set network name-service hosts max-db-size *value*

構文の説明	<p>パラメータ</p> <p><i>value</i> データベースサイズのバイト数を入力します。</p>
コマンドモード	<p>管理者 (admin:)</p> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の使用：可能</p> <p>適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。</p>

set network name-service hosts negative-time-to-live

このコマンドは、サービスの指定されたキャッシュ内の負のエントリまたは失敗したクエリの存続可能時間 (TTL) を設定します。したがって、このコマンドを使用すると、ユーザ Id (Uid) によって所有され、システムデータベースで使用できないさまざまなファイルがある場合のパフォーマンスが向上します。たとえば、Linux カーネルソースで使用可能なファイルは、ルートとして表示されます。キャッシュの一貫性の問題を軽減するには、このようなファイルの数を最小値に維持する必要があります。

set network name-service hosts negative-time-to-live *value*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>value</i>	秒数を入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network name-service hosts persistent

このコマンドは、サーバの再起動後にサービスのキャッシュの内容を保持します。このコマンドは、パラノイアモードが設定されている場合に役立ちます。

set network name-service hosts persistent *value*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>value</i>	サービスの値を入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network name-service hosts positive-time-to-live

このコマンドは、サービスの指定されたキャッシュ内の正のエントリまたは成功したクエリの存続可能時間(TTL)を設定します。値を秒単位で設定します。大きな値を指定すると、キャッシュのヒット率が増加し、平均応答時間が短縮されます。ただし、このような値を使用すると、キャッシュの一貫性の問題が増加します。

set network name-service hosts positive-time-to-live *value*

構文の説明

パラメータ	説明
-------	----

<i>value</i>	秒数を入力します。
--------------	-----------

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network name-service hosts suggested-size

このコマンドは、内部ハッシュテーブルのサイズを変更します。

set network name-service hosts suggested-size *value*

構文の説明

パラメータ	説明
-------	----

<i>value</i>	最適な効率を実現するためのプライム番号を入力します。
--------------	----------------------------

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network name-service services cache-enable

このコマンドは、nscd 関連のキャッシュを有効にします。

set network name-service services cache-enable *value*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>value</i>	ブール値は、 <i>yes</i> または <i>no</i> のいずれかにする必要があります。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network name-service services max-db-size

このコマンドは、サービスの最大許容サイズを設定します。

```
set network name-service services max-db-size value
```

構文の説明

パラメータ	説明
<i>value</i>	バイト数で値を入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network name-service services negative-time-to-live

このコマンドは、サービスの指定されたキャッシュ内の負のエントリまたは失敗したクエリの存続可能時間 (TTL) を設定します。したがって、このコマンドを使用すると、ユーザ Id (Uid) によって所有され、システムデータベースで使用できないさまざまなファイルがある場合のパフォーマンスが向上します。たとえば、Linux カーネルソースで使用可能なファイルは、ルートとして表示されます。キャッシュの一貫性の問題を軽減するには、このようなファイルの数を最小値に維持する必要があります。

set network name-service services negative-time-to-live value

構文の説明

パラメータ	説明
<i>value</i>	最適な効率を実現するためのプライム番号を入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル: 1

アップグレード時の使用: 可能

適用対象: Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network name-service services persistent

このコマンドは、サーバの再起動後にサービスのキャッシュの内容を保持します。このコマンドは、パラノイアモードが設定されている場合に役立ちます。

set network name-service services persistent value

構文の説明

パラメータ	説明
<i>value</i>	サービスの値を入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル: 1

アップグレード時の使用: 可能

適用対象: Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network name-service services positive-time-to-live

このコマンドは、サービスの指定されたキャッシュ内の正のエントリまたは成功したクエリの存続可能時間(TTL)を設定します。このコマンドに大きな値を入力すると、キャッシュのヒット率が増加し、平均応答時間が短縮されます。ただし、大きな値を指定すると、キャッシュの一貫性の問題が増加します。

set network name-service services positive-time-to-live *value*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>value</i>	秒数を入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network name-service services suggested-size

このコマンドは、内部ハッシュテーブルのサイズを設定します。

set network name-service services suggested-size *value*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>value</i>	最適な効率を実現するためのプライム番号を入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network nic eth0

このコマンドは、イーサネットインターフェイス0のプロパティを設定します。イーサネットインターフェイス1は設定できません。

set network nic eth0 {**auto** | {**en** | **dis**}} {**speed** | {**10** | **100**}} {**duplex** **half** | {**half** | **full**}}

構文の説明	パラメータ	説明
	eth0	イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
	auto	自動ネゴシエーションをイネーブルにするかディセーブルにするかを指定します。
	speed	イーサネット接続の速度を 10 Mb/秒または 100 Mb/秒のいずれかに指定します。
	duplex	半二重または全二重を指定します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



(注) 一度にアクティブにできる NIC は 1 つだけです。



注意 続行すると、NIC がリセットされる間ネットワーク接続が一時的に失われます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network ntp option

このコマンドは、*noquery* オプションを */etc/config* ファイルに追加します。

set network ntp option

コマンドモード 管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set network pmtud state

パス MTU ディスカバリをイネーブルまたはディセーブルにします。

set network pmtud state {enable | disable}

構文の説明

パラメータ	説明
enable	パス MTU ディスカバリをイネーブルにします。
disable	パス MTU ディスカバリをディセーブルにします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意 続行すると、システムのネットワーク接続が一時的に失われます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set network pmtud state enable      W A R N I N G
This will cause the system to temporarily lose network connectivity
Do you want to continue ?
Enter "yes" to continue or any other key to abort
yes
executing...
```

set network restore

指定したイーサネットポートで指定したスタティック IP アドレスを使用するように設定します。

set network restore eth0 ip-address network-mask gateway

構文の説明

パラメータ	説明
eth0	イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
<i>ip-address</i>	割り当てるプライマリまたはセカンダリ DNS サーバ、またはネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを表します。続行すると、ネットワーク接続が一時的に切断されます。プライマリ DNS サーバの IP アドレスを変更する場合は、Cisco Tomcat サービスも再起動する必要があります。詳細については、 utils service コマンドを参照してください。また、IP アドレスを 1 つでも変更したときは、必ずすべてのノードを再起動することを推奨します。
<i>network-mask</i>	サーバのサブネット マスクを表します。
<i>gateway</i>	デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。
<i>ip-address</i>	割り当てるプライマリまたはセカンダリ DNS サーバ、またはネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを表します。続行すると、ネットワーク接続が一時的に切断されます。プライマリ DNS サーバの IP アドレスを変更する場合は、Cisco Tomcat サービスも再起動する必要があります。詳細については、 utils service コマンドを参照してください。また、IP アドレスを 1 つでも変更したときは、必ずすべてのノードを再起動することを推奨します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン



注意 このコマンド オプションは、他の **set network** コマンドを使用してネットワーク接続を復元できない場合にのみ使用します。このコマンドでは、指定されたネットワーク インターフェイスに関する今までのネットワーク設定が、**Network Fault Tolerance** も含めてすべて削除されます。このコマンドを実行した場合は、後から以前のネットワーク設定を手動で復元する必要があります。



注意 このコマンドを実行すると、サーバのネットワーク接続が一時的に失われます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set network restore eth0 10.94.150.108 255.255.255.0 10.94.150.1
```

set network status eth0

このコマンドは、イーサネット0のステータスをアップまたはダウンにします。イーサネットインターフェイス1は設定できません。

```
set network status eth0 {up | down}
```

構文の説明	パラメータ	説明
	eth0	イーサネットインターフェイス0を指定します。
	up	イーサネットインターフェイス0のステータスをアップに設定します。
	down	イーサネットインターフェイス0のステータスをダウンに設定します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意 続行すると、システムのネットワーク接続が一時的に失われます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set network name-service

このコマンドは、ネームサービスのキャッシュ属性を表示します。

```
set network name-service [attribute] [value]
```


構文の説明	属性	値
	Paranoia	Bool は、Yes または No のいずれかである必要があります。パラノイアモードを有効にすると、ネームサービスは定期的に再起動します。
	debug-level	レベルが0より大きい場合は、ネームサービスによってデバッグ出力が作成されます。レベルが高いほど、出力がさらに詳細になります。
	reload-count	キャッシュからプルーニングされる前に、キャッシュされたレコードをリロードする回数を設定します。各キャッシュレコードにはタイムアウトがあります。このタイムアウト期限が切れると、ネームサービスはリロードします (データが変更されていない場合は NSS サービスに再度クエリを実行) か、ドロップします。
	restart-interval	パラノイアモードを有効にして定期的な再起動が有効になっている場合は、再起動間隔を時間秒に設定します。デフォルト値は 3600 です。

コマンドモード	管理者 (admin:)
	要件
	コマンド特権レベル : 1
	アップグレード時の使用 : 不可

set password complexity minimum-length

このコマンドは、OS 管理者アカウントの最小パスワード長の値を変更します。



(注) パスワードの文字の複雑さを有効にした後で使用します。

set password complexity minimum-length *max-repeat*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>value</i>	6以上の値を入力します。

コマンドモード	管理者 (admin:)
	要件
	コマンド特権レベル : 1
	アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set password age

このコマンドは、Cisco Collaboration Communication OS (C3OS) のアカウントのパスワードの有効期間を日単位で変更します。

```
set password age {maximum | minimum} days
```

構文の説明	パラメータ	説明
	maximum	最大有効期間を指定します。
	minimum	最小有効期間を指定します。
	<i>days</i>	パスワードの最大有効期間を指定します。この値は、90 日以上である必要があります。

コマンドモード	管理者 (admin:)
	要件
	コマンド特権レベル : 1
	アップグレード時の使用 : 不可
	適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set password change-at-login

新規または既存のユーザがシステムに次回サインインするときにパスワードを変更するように強制するには、このコマンドを使用します。

```
set password change-at-login {disable | enable} userid
```

構文の説明	パラメータ	説明
	disable	ユーザにパスワードの変更を強制しません。
	enable	ユーザがシステムに次回サインインするときに、パスワードの変更を強制します。
	<i>userid</i>	影響を受けるユーザ アカウントを指定します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン デフォルトでは、このコマンドは新規ユーザに対してイネーブルにされるため、ユーザはシステムに初めてサインインしたときにパスワードを変更する必要があります。

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager の IM and Presence サービスのみ。

set password complexity character

パスワード中の文字の種類に対するパスワード複雑さルールをイネーブルまたはディセーブルにします。



- (注) パスワードの複雑さをイネーブルにした後、このコマンドは、パスワードの履歴がまだイネーブルになっていない場合にイネーブルにします（詳細については、**set password history** コマンドを参照してください）。前にパスワード履歴をイネーブルにしていない場合は、パスワード履歴の **number** パラメータ値が 10 に設定されます。前に 10 未満の値を使用してパスワード履歴をイネーブルにした場合、このコマンドを実行した後、値が 10 にリセットされます。前に 10 以上の値を使用してパスワード履歴をイネーブルにした場合は、このコマンドを実行した後値の変更はありません。

set password complexity character {**disable** | **enable**} *num-char*

構文の説明

パラメータ 説明

disable これは、文字タイプに対してパスワードの複雑度をオフにします。

enable これは、文字タイプに対してパスワードの複雑度をオンにします。

- (注) パスワードの複雑さを無効にする場合は、**password character difference**、**password character max-repeat**、および **password history** をオフにすることもできます。

num-char 4つの文字セット（小文字、大文字、数字、特殊文字）のそれぞれからの必要な文字数を指定します。

- 値の範囲：0～8
- デフォルト値：1

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

パスワードの複雑度をイネーブルにした場合は、パスワードの割り当て時に以下のガイドラインに従う必要があります。

- num-chars の現在の設定値以上の個数の小文字が含まれている必要があります。
- num-chars の現在の設定値以上の個数の大文字が含まれている必要があります。
- num-chars の現在の設定値以上の個数の数字が含まれている必要があります。
- num-chars の現在の設定値以上の個数の特殊文字が含まれている必要があります。
- キーボード上で隣り合っている文字を使用することはできません（たとえば qwerty）。
- パスワード履歴が保持するパスワードと一致する以前のパスワードを再使用することはできません。
- デフォルトでは、管理者ユーザパスワードは、24 時間に一度しか変更できません。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set password complexity character difference

このコマンドは、新しいパスワードの文字シーケンスが古いパスワード文字シーケンスと異ならなければならない文字数を指定します。

set password complexity character difference *num-char*

構文の説明

パラメータ

num-char 新しいパスワードの文字シーケンスが古いパスワード文字シーケンスと異ならなければならない文字数を指定します。

- 値の範囲：0 ～ 31

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

違いがないことを示すには 0 を入力します。



(注) パスワードの最大長は 31 文字です。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set password complexity character max-repeat

このコマンドは、新しいパスワードの中で単一文字を連続的に繰り返すことができる回数を指定します。

set password complexity character max-repeat *max-repeat*

構文の説明

パラメータ

max-repeat 新しいパスワードの中で単一文字を連続的に繰り返すことができる回数を指定します。

- 値の範囲：0 ～ 10

デフォルト値: 0

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set password expiry maximum-age

このコマンドは、Cisco Collaboration Communication OS (C3OS) の管理者アカウントパスワードの期限切れの最大有効期間の設定をイネーブルまたはディセーブルにします。

set password expiry maximum-age {enable | disable}

構文の説明	パラメータ	説明
	enable	Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントパスワードの期限切れの最大有効期間の設定をオンにします。set password expiry enable コマンドでは、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントパスワードの最大有効期間は3650日（10年）に設定されます。
	disable	Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントパスワードの期限切れの最大有効期間の設定をオフにします。set password expiry disable コマンドを実行すると、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントでパスワードが期限切れにならなくなります。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set password expiry maximum-age disable
Operation Successful.
```

set password expiry user maximum-age configure

このコマンドは、特定のシスココラボレーション通信 OS 管理アカウントの最大パスワード経過時間の値を日単位で変更します。

set password expiry user maximum-age configure ユーザ ID パスワードの最大有効期間

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>userid</i>	シスココラボレーション通信 OS (C3OS) 管理者アカウントを入力します。
	<i>maximum password age</i>	最大パスワード経過時間 (日数) を入力します。この値は、10 日以上 3650 日 (10 年) 未満である必要があります。

コマンドモード	管理者 (admin:)
	要件
	コマンド特権レベル: 1
	アップグレード時の使用: 可能
	適用対象: Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set password expiry minimum-age

このコマンドは、Cisco Unified オペレーティング システムの管理者アカウントパスワードの期限切れの最小有効期間の設定をイネーブルまたはディセーブルにします。

set password expiry minimum-age {enable | disable}

構文の説明	パラメータ	説明
	enable	Cisco Unified オペレーティング システムの管理者アカウントパスワードの期限切れの最小有効期間の設定をオンにします。set password expiry enable コマンドでは、Cisco Collaboration Communication OS (C3OS) の管理者アカウントパスワードの最小有効期間は 1 日 (24 時間) に設定されます。

パラメータ	説明
disable	Cisco Collaboration Communication OS (C3OS) の管理者アカウントパスワードの期限切れの最小有効期間の設定をオフにします。これは、管理者アカウントのパスワードはいつでも変更できることを意味します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set password expiry minimum-age disable
Operation Successful.
```

set password expiry user maximum-age

このコマンドは、特定の Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントパスワードの期限切れの最大有効期間をイネーブルまたはディセーブルにします。

```
set password expiry user maximum-age {enable | disable}userid
```

構文の説明

パラメータ	説明
enable	特定の Cisco Collaboration Communication OS (C3OS) の管理者アカウントパスワードの期限切れの最大有効期間の設定をオンにします。set password expiry user enable コマンドでは、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントパスワードの最大有効期間は 3650 日 (10 年) に設定されます。
disable	特定の Cisco Collaboration Communication OS (C3OS) の管理者アカウントパスワードの期限切れの最大有効期間の設定をオンにします。set password expiry user enable コマンドでは、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントパスワードの最大有効期間は 3650 日 (10 年) に設定されます。

パラメータ	説明
<i>userid</i>	特定の Cisco Collaboration Communication OS (C3OS) の管理者アカウントを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set password expiry user maximum-age enable
Operation Successful.
```

set password expiry user minimum-age

このコマンドは、特定の Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントパスワードの最大有効期間をイネーブルまたはディセーブルにします。

```
set password expiry user minimum-age {enable | disable} userid
```

構文の説明

パラメータ	説明
enable	特定の Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントパスワードの最小有効期間の設定をオンにします。
disable	特定の Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントパスワードの最小有効期間の設定をオフにします。
<i>userid</i>	特定の Cisco Unified オペレーティングシステムの管理者アカウントを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:set password expiry user minimum-age disable
Operation Successful.
```

set password history

このコマンドは、OS 管理アカウントの履歴に保持されるパスワードの数を変更します。すでに記憶されているパスワードに一致する新規パスワードは拒否されます。

set password history *number*

構文の説明

パラメータ

number 履歴に保持する必須のパスワード数を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

- ディisableにするには、0 を入力します。
- デフォルトは 10 です。
- 上限は 20 です。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set password inactivity

set password inactivity {enable | disable | period} 日 (days)

構文の説明

パラメータ	説明
enable	パスワードの非アクティビティをグローバルにイネーブルにし、その設定に従って個々の OS ユーザを更新します。
disable	パスワードの非アクティビティをグローバルにディセーブルにし、その設定に従って個々の OS ユーザを更新します。
period	パスワードの非アクティビティ期間をグローバルに設定し、その設定に従って個々の OS ユーザを更新します。
<i>days</i>	パスワードが期限切れになってからアカウントがディセーブルになるまでの非アクティビティの日数を指定します。有効な範囲は 1 ~ 99 です。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

- パスワードの非アクティビティをグローバルにイネーブルにするには、**set password inactivity enable** コマンドを実行します。このコマンドは、パスワードの非アクティビティをグローバルにイネーブルにし、その設定に従って個々の OS ユーザを更新します。
- パスワードの非アクティビティをグローバルにディセーブルにするには、**set password inactivity disable** コマンドを実行します。このコマンドは、パスワードの非アクティビティをグローバルにディセーブルにし、その設定に従って個々の OS ユーザを更新します。
アカウントがディセーブルになっているユーザが再度システムを使用するには、システム管理者に問い合わせる必要があります。
- パスワードの非アクティビティ期間を設定するには、**set password inactivity period days** コマンドを実行します。このコマンドは、パスワードの非アクティビティをグローバルに設定し、その設定に従って個々の OS ユーザを更新します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set password system bootloader encryptHash

このコマンドを使用して、システムブートローダのために、暗号化されたパスワードをgrubファイルに設定します。

set password system bootloader encryptHash

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set password user admin

このコマンドを使用すると、管理者のパスワードを変更できます。

set password user admin

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン 以前のパスワードと新しいパスワードの入力を求められます。



-
- (注)
- ログインした管理者アカウントのパスワードのみを変更できます。
 - パスワードは6文字以上でなければならず、システムがパスワードの強度を確認します。
-

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set password user security

このコマンドを使用すると、セキュリティパスワードを変更できます。

set password user security

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン 以前のパスワードと新しいパスワードの入力を求められます。



(注) パスワードは6文字以上でなければならず、システムがパスワードの強度を確認します。

クラスタ内のサーバ間の通信は、セキュリティパスワードを使用して認証されます。セキュリティパスワードを変更した後に、クラスタをリセットする必要があります。

1. セキュリティパスワードをパブリッシュサーバ (第1ノード) で変更し、その後、サーバ (ノード) をリブートします。
2. 他のすべてのサーバおよびノードで、セキュリティパスワードを第1ノードで作成したパスワードと同じものに変更してから、パスワードの変更を反映するために、アプリケーションサーバを含めてこれらのノードを再起動します。



(注) 各サーバでパスワードを変更した後、そのサーバを再起動することをお勧めします。



(注) サーバ (ノード) をリブートしないと、システムサービスの問題が発生するほか、サブスクリバサーバ上の [Cisco Collaboration Communication OS (C3OS) の管理 (Cisco Collaboration Communication OS (C3OS) Administration)] ウィンドウで問題が発生します。

要件

コマンド特権レベル: 1

アップグレード時の使用: 不可

適用対象: Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set replication-sync monitor

このコマンドは、Cisco Replication Watcher サービスによる複製のモニタリングをイネーブルまたはディセーブルにします。Cisco Replication Watcher サービスでは、データベースの複製が設定されて通常どおり機能するまで他のサービスの開始がブロックされます。

set replication-sync monitor {enable | disable}

構文の説明

パラメータ

enable 複製のモニタリングサービスをオンにします。

disable 複製のモニタリングサービスをオフにします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象: Unified Communications Manager の IM and Presence サービスのみ

set samltrace level

このコマンドは、SAML トレース レベルを設定します。

set samltrace level *trace level*

構文の説明

パラメータ

trace level トレース レベルを指定します。次のオプションを使用できます。

- DEBUG
- INFO
- WARNING
- ERROR
- FATAL

(注) デフォルトのトレース レベルは INFO です。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set session maxlimit

このコマンドは、同時セッション数の上限を設定します。

set session maxlimit [*value*]

構文の説明

パラメータ	説明
maxlimit	このコマンドは、同時セッション数の上限を設定します。許容可能な値は 1 ~ 100 です。 上限を入力しない場合は、デフォルト値の 10 が <code>sshd_config</code> パラメータに割り当てられます。
<i>value</i>	許容可能な値は 1 ~ 100 です。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set smtp

このコマンドは、SMTP サーバのホスト名を設定します。

set smtp *hostname*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>hostname</i>	SMTPサーバ名を表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set strace enable

このコマンドは、サービス トレースをイネーブルにし、トレース レベルを設定します。

set strace enable [*all*]*tracevalue servicename*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>all</i>	オプションのパラメータで、サービスのトレース設定の変更をすべてのノードに反映させます。
<i>tracevalue</i>	許可されたトレース値を表します。許可されたトレース値は [Info Debug Warn Error Fatal] です。
<i>servicename</i>	トレースがイネーブルにされたサービスを表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

set strace disable

このコマンドは、サービス トレースをディセーブルにします。

set strace disable [*all*] *servicename*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>all</i>	オプションのパラメータで、サービスのトレース設定の変更をすべてのノードに反映させます。
	<i>servicename</i>	トレースがイネーブルにされたサービスを表します。
コマンドモード	管理者 (admin:)	
	要件	
	コマンド特権レベル：0	
	アップグレード時の使用：不可	
	適用対象：Unified Communications Manager の IM and Presence サービス	

set timezone

このコマンドを使用すると、システムの時間帯を変更できます。

set timezone *zone*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>zone</i>	新しい時間帯を指定します。時間帯を一意に識別するために、適切な文字列またはゾーンインデックス ID を入力します。有効なタイムゾーンのリストを表示するには、CLI show timezone list コマンドを使用します。
コマンドモード	管理者 (admin:)	
使用上のガイドライン	新しい時間帯を一意に識別できるだけの文字を入力します。時間帯の名前では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。	



- (注) システムのタイムゾーンを米国のタイムゾーンに変更する場合は、米国のコールルーティングの規制にシステムが準拠している必要があります。Unified Communications Manager の管理者は、緊急コールのルーティング規制ページを参照して、必要な設定を完全に実行する必要があります。



注意 時間帯を変更した場合は、システムを再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

時間帯を太平洋時間に設定する例

```
admin:set timezone Pac
```

set tls min-version

このコマンドは、Transport Layer Security (TLS) プロトコルの最小バージョンを設定します。



- (注)
- 最小 TLS バージョンを設定すると、システムが再起動します。
 - 各ノードの最小 TLS バージョンを設定します。

```
set tls min-version tls minVersion
```

構文の説明**パラメータ 説明**

パラメータ	説明
<i>tls minVersion</i>	最小 TLS バージョンとして設定するには、次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1.0 • 1.1 • 1.2

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン**要件**

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

例

```
admin: set tls min-version 1.1
```

This command will result in setting minimum TLS version to 1.1 on all the secure interfaces.

If you have custom applications that makes secure connection to the system, please ensure

they support the TLS version you have chosen to configure.

Also, please refer to the Cisco Unified Reporting Administration Guide to ensure the endpoints in your deployment supports this feature.

```
*****
```

```
Warning: This will set the minimum TLS to 1.1 and the server will reboot.
```

```
*****
```

```
Do you want to continue (yes/no) ? yes
```

```
Successfully set minimum TLS version to 1.1
```

```
The system will reboot in few minutes.
```

set trace disable

このコマンドは、指定されたタスクのトレース アクティビティの設定を解除します。

set trace disable *tname*

構文の説明

パラメータ	説明
disable	タスク トレースの設定を解除します。
<i>tname</i>	トレースをディセーブルにするタスクを表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set trace enable

このコマンドは、指定されたタスクにトレース アクティビティを設定します。

set trace enable {Arbitrary | Detailed | Entry_exit | Error | Significant | Special | State_Transition}
tname

構文の説明

パラメータ	説明
Arbitrary	タスク トレース設定を arbitrary レベルに設定します。
Detailed	タスク トレース設定を detailed レベルに設定します。
Entry_exit	タスク トレース設定を entry_exit レベルに設定します。
Error	タスク トレース設定を error レベルに設定します。
Significant	タスク トレース設定を significant レベルに設定します。
Special	タスク トレース設定を special レベルに設定します。
State_transition	タスク トレース設定を state transition レベルに設定します。
<i>tname</i>	トレースをディセーブルにするタスクを表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set tlsresumptiontimeout

このコマンドは、TLS 再開が正常に動作しない後、セッションが無効にされる秒数を設定します。

set tlsresumptiontimeout *seconds*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>seconds</i>	3600 秒以下の値を入力します。TLSセッションは、設定された値の後に無効になります。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

set tlstrace*

ユニファイドコミュニケーションマネージャリリース11.0以降では、サービスの TLS トレースを有効または無効にすることができます。現在、tomcatはサポートされている唯一のサービスです。CLIコマンドを使用して、ユニファイドコミュニケーションマネージャへの TLS 接続が失敗した理由を表示します。

Tls トレースには、次の TLS ベースの CLI コマンドが追加されています。

set tlstrace disable

この CLI コマンドは、サービスの TLS トレースを無効にします。

set tlstrace disable *service*

構文の説明	パラメータ 説明
	<i>service</i> TLS トレースを無効にするために使用するサービスを指定します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

例

```
admin:set tlstrace disable tomcat
TLS tracing is disabled for: tomcat
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set tlstrace enable

この CLI コマンドは、サービスの TLS トレースを有効にします。

set tlstrace enable *service*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>service</i>	TLS トレースを有効にするために使用するサービスを指定します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

例

```
admin:set tlstrace enable tomcat
TLS tracing is enabled for: tomcat
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

set web-security

このコマンドは、オペレーティング システムに Web セキュリティ証明書情報を設定します。

set web-security *orgunit orgname locality state* [*country*] [*alternatehostname*]

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>orgunit</i>	組織ユニット (OU) 名を表します。 このコマンドを使用すると、複数の組織ユニットを入力できます。複数の組織ユニット名を入力するには、エントリをカンマで区切ります。カンマを含むエントリは、エントリ内のカンマの前に円記号を入力します。組織ユニットに対して複数の値を入力するには、このコマンドの例で示すように値を引用符で囲みます。 (注) すでにバックスラッシュが含まれている OU の場合は、インストール時に SLM 登録と CSR 生成が失敗するため、もう1つのバックスラッシュを入力しないでください。
	<i>orgname</i>	組織名を表します。
	<i>locality</i>	組織の場所を表します。
	<i>state</i>	組織の状態を表します。
	<i>country</i>	(任意) 組織の国を表します。

パラメータ	説明
<i>alternatehostname</i>	<p>(任意) Web サーバ (Tomcat) 証明書を生成するときに使用される、ホストの代替名を指定します。</p> <p><i>alternatehostname</i> を使用して、自己署名証明書のサブジェクト代替ホスト名を設定できます。CSR のサブジェクト代替ホスト名は、[証明書の管理 (Certificate Management)] ページで定義されます。このコマンドを使用して CSR の代替ホスト名を設定すると、CSR 生成プロセスによって、設定された代替ホスト名に置き換えられます。</p>



(注) 代替ホスト名に追加するときの `set web security` コマンドは適用され、今後生成されるすべての CSR (tomcat、CallManager、CAPF、TV、IPsec など) に追加されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

Unified CM サーバーの再構築を計画している場合は、同じ OU サブジェクトパラメータを使用する必要があります。同じパラメータを使用しないと、コマンド `show web-security` を実行したときに矛盾が生じます。これは、DRS バックアップ中にこのファイルがバックアップされないため、`platformConfig.xml` ファイルには再構築前に提供された保存済みパラメータ情報がないためです。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

例

次に、カンマ区切り文字を使用して複数の組織ユニット名を指定する `web-security` コマンドの例を示します。証明書には 3 つの OU フィールドがあります。

- OU=accounting
- OU=personnel, CA
- OU=personnel, MA

```
admin:set web-security "accounting,personnel\,CA,personnel\,MA" Cisco Milpitas
CA
set web-security "Voice\Video" "Cisco" "RTP" NC
```

set webapp session timeout

このコマンドは、Unified Communications Manager Administration などの Web アプリケーションがタイムアウトしユーザをログオフするまでの時間を分単位で設定します。

新しい webapp セッションタイムアウトを有効にするには、Cisco Tomcat サービスを再起動する必要があります。Cisco Tomcat サービスを再起動するまでは、**show webapp session timeout** コマンドでは新しい値が反映されますが、システムは古い値を使用および反映し続けます。このコマンドでは、サービスを再起動するかどうかを問い合わせるプロンプトが表示されます。



注意 Cisco Tomcat サービスを再起動すると、すべてのアクティブセッションが終了し、システムパフォーマンスに影響を与えるおそれがあります。このコマンドを実行するのは非ピーク時間だけにすることを推奨します。



(注) この設定は、ソフトウェアアップグレードによって維持され、デフォルト値にリセットされません。

set webapp session timeout *minutes*

構文の説明

パラメータ 説明

minutes Web アプリケーションがタイムアウトし、ユーザをログオフするまでの時間を分単位で指定します。

- 値の範囲 : 5 ~ 99999 分
- デフォルト値 : 30 分

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set webapp session maxlimit

このコマンドは、ユーザ1人あたりの同時 web アプリケーションセッションの最大制限を設定します。これは、次のインターフェイスに適用されます。

- Cisco Unified CM Administration
- Cisco Unified Serviceability
- Cisco Unified Reporting
- Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータル
- Cisco Unified CM IM and Presence の管理
- Cisco Unified IM and Presence サービスアビリティ
- Cisco Unified IM and Presence のレポート

セッションの最大制限設定が有効になるには、管理者が Cisco tomcat サービスを再起動する必要があります。



注意 Cisco Tomcat サービスを再起動すると、すべてのアクティブセッションが終了し、システムパフォーマンスに影響を与えるおそれがあります。このコマンドを実行するのは非ピーク時間だけにすることを推奨します。



(注) この設定は、ソフトウェア アップグレードによって維持され、デフォルト値にリセットされません。

set webapp session maxlimit *number*

構文の説明

パラメータ 説明

number 同時 web アプリケーションセッションを制限する番号を指定します。
 値の範囲は 1 ~ 10 です。
 デフォルト値は 10 です。

utils EnhancedSecurityModeが有効になっている場合、セッション制限は3に制限されます。強化されたセキュリティモードを設定する方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド、リリース 11.5(1)SU1*』の「**FIPS 140-2 モードの設定**」の章を参照してください (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>)。

- (注)
- 定義されているサインインセッションの最大数を超えると、インターフェイスのサインイン ページには次のようにログオンのステータスメッセージが表示されます: <ユーザー名> のセッションの制限にすでに達しました。(The Session limit has already been reached for <username>) これらのセッションからログアウトするか、非アクティブなセッションが自動的に閉じるまで30分待つてください。
 - 強化されたセキュリティモードが有効になっている場合、セッション制限は3に制限されます。ただし、管理者は、**set webapp session maxlimit** コマンドを使用してセッション制限を 1 ~ 10 の範囲内の任意の値に変更できます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager IM、Presence サービス、Cisco Unity Connection。

例

次の例では、**set webapp session maxlimit webapp session maxlimit** を 4 に設定する方法について説明します。

```
admin:set webapp session maxlimit 4
```

```
*****W A R N I N G*****
The Cisco Tomcat service needs to be restarted for the changes to take effect.This will disconnect active web sessions and all web applications on this node will be unavailable until the service restarts.This service restart will take several minutes to complete.
```

```

Do you want to continue (yes/no) ? yes

*****Restarting Tomcat*****
Service Manager is running
Cisco Tomcat[STOPPING]
Cisco Tomcat[STOPPING]
Cisco Tomcat[STOPPING]
Cisco Tomcat[STOPPING]
Cisco Tomcat[STARTING]
Cisco Tomcat[STARTING]
Cisco Tomcat[STARTED]
The webapp session limit has been successfully set to 4.

```

次の例では、を**utils EnhancedSecurityMode**有効にする方法について説明します。

```

admin:utils EnhancedSecurityMode enable

The system is operating in NON-FIPS and NOT operating in Enhanced Security Mode.

Enhanced Security Mode can be enabled only when the system is operating in FIPS mode
Do you wish to enable FIPS mode as well (yes/no) ? yes

Warning : This operation will modify the password policies

1)Password Length should be between 14 to 127 characters.
2)Password should have at least 1 lowercase, 1 uppercase, 1 digit and 1 special character.
3)Any of the previous 24 passwords cannot be reused.
4)Minimum age of the password is 1 day and Maximum age of the password is 60 days.
5)Any newly generated password's character sequence will need to differ by at least 4
characters from the old password's character sequence.

Warning : This mode will limit the total number of concurrent web application sessions
to 3.

*****
This will change the system to Enhanced Security Mode and will reboot
*****
Do you want to continue (yes/no) ? yes
The protocol for communication with remote syslog server is already set to tcp. No changes
required.

The system is already operating in contact search authentication enable mode; no change
required. Exiting.

The concurrent web application session limit has been successfully set to 3.

Setting password restrictions as part of Enhanced Security Mode enable

Calling fips enable

Security Warning : The operation will regenerate certificates for

1)CallManager
2)Tomcat
3)IPsec
4)TVS
5)CAPF
6)SSH
7)ITLRecovery

Any third party CA signed certificates that have been uploaded for the above
components will need to be re-uploaded.
If the system is operating in mixed mode, then the CTL client needs to be run
again to update the CTL file.

```

```
If there are other servers in the cluster, please wait and do not change the
FIPS settings on any other node until the FIPS operation on this node is complete
and the system is back up and running.
*****
This will change the system to FIPS mode and will reboot.
*****
```

set workingdir

このコマンドは、アクティブ、非アクティブ、およびインストールの各ログの作業ディレクトリを設定します。

set workingdir {**activelog** | **inactivelog** | **tftp**} ディレクトリ

構文の説明

パラメータ **説明**

activelog アクティブ ログの作業ディレクトリを設定します。アクティブ ログの有効なサブディレクトリを選択します。

inactivelog 非アクティブ ログの作業ディレクトリを設定します。非アクティブ ログの有効なサブディレクトリを選択します。

tftp TFTP ファイルの作業ディレクトリを設定します。

directory 現在の作業ディレクトリを表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。